2016年（平成28年）
第100号
（4月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

創立７８周年記念式典　全国各教会で挙行　～開祖さまは手取りのお手本～

立正佼成会の「創立７８周年記念式典」が３月５日、大聖堂はじめ全国各教会で挙行されました。大聖堂の式典には会員約４３００人が参集。法話に立った庭野日鑛会長は、全ての生きとし生けるものを尊い存在と受けとめ、互いに敬い合う大切さを説きました。式典の模様は国内外の教会・拠点にインターネットで同時配信されました。

大聖堂での式典では、全国の青年女子部員１６人による奉献の儀に続き、読経供養が行われました。庭野光祥次代会長が導師を務め、庭野会長の啓白文を奏上しました。教団を代表し、あいさつに立った川端健之理事長は、「教団創立６１周年記念式典」で庭野会長が代読した庭野日敬開祖の**「一人でも多くの人に法華経に示された人間の生き方を知ってもらい、本当の幸せを自分のものにして頂きたい」**との法話を紹介。庭野開祖が本会創立に込めた願いをかみしめ、精進することが会員の歩む道と語りました。

その後、教会役員功労者、会員特別功労者への感謝状、記念品贈呈が行われ、京都教会からは支部長を退任された福谷知子さんと阪尾高世さん、宿直当番を５０年以上勤められた、戸田貢一さんが表彰されました。

功労者を代表して体験説法が行われたあと、一燈園当番の西田多戈止師が登壇し、祝辞を述べました。西田師は祖父である西田天香師と開祖さまとのご縁、ＷＣＲＰへの取り組みの歴史を述懐されました。

また一燈園では**見知らぬ人のお宅で便所掃除をするという、平和の祈りとしての修行（六萬行願）**があり、バケツと雑巾とたわしだけを持って、「お便所のお掃除をさせてください」と一軒一軒訪ね歩く行を紹介されました。自身が３５年ほど前に宮崎で行った時のお宅が佼成会員宅で開祖さまとの深いつながりを感じられたと述べられました。

西田師が祝辞を述べる様子を中継で見たいという一燈園の信者さんが京都教会を訪れ、参拝者と共に感動を分かち合いました。最後に佐藤教会長は、30 名の会員で創立された本会が全国 238 教会になったことに触れ、会員さん一人ひとりを大事にされた開祖さまを手取りの手本としたいと、修行のあり方を示されました。

時事刻々

先月、人工知能「アルファ碁」が韓国の世界トップ棋士・李九段に勝利したという報道がありました。すでにオセロ、チェス、将棋でコンピュータが人間を超えていましたが、ついに囲碁の世界にも広がりました▼一方アメリカで、人工知能をツイッター上で一般人と会話させる実験が行われました。ところが、ヒトラーを肯定するような発言をするようになり、中止されたというニュースを目にしました▼コンピュータの発展には目を見張るものがあります。「マシーンが人間を超えた」と聞くとロボットが人間の職を奪うのではないかと恐れる人がいるかもしれません▼主婦へのアンケートで、ロボット化したい家事は、風呂掃除、トイレ掃除、部屋掃除と答えたそうです。最近、掃除ロボットが売れているのも分かります▼確かに、今まで人間が行っていた仕事が、ロボットやコンピュータに代わっていくかもしれません。だからこそ、人間としての真の生き方を考えることが必要ではないでしょうか。

今月のことば　～「あなたも私も、みな仏」～　　壮年部長　　川崎泰弘

今月は、壮年部長の川崎が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

４月号の佼成では会長先生より**「真（まこと）の自分を知る。生仏一如（しょうぶついちにょ）と気づく。それが、私たちの一生のテーマ」と、**教えて頂いております。

前段は**「衆生と仏は一つ」**です。**「生仏一如、つまり衆生と仏は本質において一つであり、衆生以外に仏はない」**と教えて頂くように、仏さまは私たちから遠く離れたところにあるのではなく、仏さまは私たちの中にあり、私たちは仏さまの中にある、と私はとらえさせて頂きます。

自分と仏さまが一つとは、どのようなことなのでしょう。**「笑顔で人とあいさつを交わすと心が和んだり、人の苦悩を知れば胸が痛み、人の喜ぶ顔を見ると嬉しくなるのも、私たちが生仏一如、凡聖不二の身にあずかる人間だから」**と教えて頂きます。私たちは自分に仏性があり、相手の仏性を拝むことによって、皆が等しく仏さまの大いなる命の中で生かされていることを、日々の実践を通じて学ばせて頂いています。

後段は**「真（まこと）の自分を知る」**です。**「仏とは、つまり自分が仏であることに気づいた人のこと」**であると教えて頂くように、私たちは自分の中に慈悲の心を感じて悦びを得ることがあります。

そうはいっても妄想と執着によって自分の輝き（仏性）に気づけない私たちですが、サンガの皆さんと日々の精進を積み重ねることによって**「自らの尊さに気づくこと、真（まこと）の自分を知る」**ことに近づけるのは、とてもありがたいことです。

会長先生は、真（まこと）の自分を知ることの実践として、昔の禅僧の教えを示してくださいました。

私は一見強い精神力があるように見られがちですが、心に弱いところがあります。また、人になじめず、他者と比較して自分の能力が足りないことに悲観したり、落ち込んだり、時には無気力になってしまいます。

そんな自分に対して、会長先生がお示しくださった**自分の心の中にある仏（仏性）と問答をする習慣**をつけてみようと思います。

「おい、（川崎）泰弘」と自らが自分の心に呼びかけ、「はい」と答えて、さらに「私（仏）の声が聞こえるか」「はい」、「人さまのために自分の命を使うように努めているか」「はい」、「真の自分を見失うことなく精進するのだ」「はい」と問答を交わして、自分と仏が一つであることを見失わないように、精進していきたいと思います。

合掌

支部壮年部練成開催　～支部交流の手取りで新たな風を起こした～

３月 12 日、13 日に支部壮年幹部練成会を京都教会で行い、支部壮年部長を中心に 19 名が参加しました。

２日間にわたりグループ討議、手取り、法座を行いました。一日目の夜は８班に分かれて教会近郊での支部交流による手取り、翌日にはかみしめの法座を行い、とても有意義な練成になりました。

手取り前の夕食は青年部さんに作って頂いて、一緒に食事をさせて頂きました。

佐藤教会長も自ら、包丁をにぎって参加し、青年と共に作った心暖まるおいしいお食事は、壮年の皆さんに大好評でした。

「平安月報」発刊 100 号に寄せて

今回、本紙の 100 号目を発行することができました。創刊時よりご尽力いただいた中村常務理事（前京都教会長）と宮地渉外部顧問（前渉外部長）に寄稿していただきましたので、以下に紹介します。

常務理事　中村　憲一郎

「平安月報」発刊 100 号、誠におめでとうございます。「継続は力」と申しますが、今や会の内外に多くの読者を持つ情報紙に成長しました。

発刊は確か、京都において WCRP（世界宗教者平和会議）第８回世界大会の年だったと記憶しています。

前身としては、青年女子部の中田ヒコちゃん（裕子さん）が世界大会を迎え入れるにあたり、もっと佼成会の活動や宗教協力について青年部の皆さんに知ってもらいたいと刊行した「ニコニコタイムス」があります。彼女の純粋に知りたい、一人でも多くの青年に知ってもらいたいという熱い思いに発しての手づくりの情報紙でした。腕章を巻いて取材し、写真を撮っている姿は忘れられません。

その後、渉外部長の宮地さんがその思いを引き継ぎ、名称も「平安月報」と変えて、外部の宗教者を中心とした有識者や本部関係者に届けられました。そして今日めでたく 100 号を迎えたのです。

中田さんという一人の女子青年部の志が、やがて大人にまで影響を及ぼし、実を結ぶ。志が善なれば（仏様の願いにかなっていれば）、叶わないことはない。一念三千の世界を見させていただきました。

今日までその志を大切に育て、育んできてくださった関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。皆さまのご尽力が、少しでも対話による宗教協力、平和づくりに実を結ばれますよう心から祈念申し上げます。

合掌

渉外部顧問　宮地　啓安

本紙の１号目を発行した 2008 年は、教団創立 70 周年の年でした。この年に創立の精神に立ち返り、創立者の願いである、『国民皆信仰』『世界平和実現』に向けて、精進することを確認していきたいと願い、「平安月報」を創刊しました。

会員だけでなく、当教会とご縁のある方々に私たちのことを知っていただき、人々を幸せにし、世の中を平和に導くために、共に考え、行動していただける方の輪を広げていきたいと考えたのです。

当時、中村教会長さん（現教団常務理事）にこの企画を相談した際、快諾していただき、ご支援いただきました。「無理しなくて、隔月でいいのでは」と言われましたが、「毎月出します」と言った手前、意地（？）でも毎月発行しようと思い、今日に至っています。

京都という有り難い土地にあったため、話題に事欠かなかったことが幸いしたと思います。そして、読者の方から多くの感想や、激励の言葉をいただいたことが、100 号まで続けられた一番の励みでありました。

さらに教会長さん、部長さん、支部長さん、会員さんからも、寄稿や配布を手伝っていただいていることは有り難く思います。当初は、スタッフの中でも続けられるか不安に思った者もいましたが、回を重ねるたびに、力をつけてもらっていると実感しています。

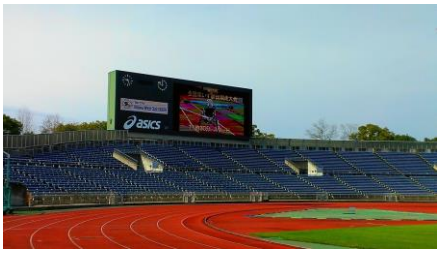
今後も、内外の方々と協力により、一人ひとりに平和の心が宿るために本紙が役立つように祈念します。

合掌

全国車いす駅伝競走大会　～選手の降車介助や運営を青年部がサポート～

３月 13 日に「第 27 回全国車いす駅伝競走大会」開催され、京都教会青年部から多数の青年がボランティアに参加しました。

大会前日の 12 日は、スタート地点の「国立京都国際会館」周辺で、全国から車で来られる選手の方々の案内・誘導をさせて頂きました。13 日の当日は、西京極競技場でレーサー(競技用車いす)や常用車いすの移動や、選手がバスから降りる際の降車介助等のボランティアをさせて頂きました。両日ともお天気に恵まれ、選手の方とのふれあいの中で、普段とは違う貴重で有難い体験をさせて頂くことが出来ました。



明るい社会づくり運動について　～庭野開祖著『平和への道』より～

庭野開祖は「明るい社会づくり運動」を提唱しています。この運動も平和を実現するための大切な要素となっています。このことについて、前回に引き続き、庭野開祖の著書から紹介していきます。　（編集部）

社会を明るくすることの反対は、申すまでもなく、社会を暗くすることです。現在の社会を暗くしているものに、いったい何があるのでしょうか。まず公害、交通戦争、青少年非行化と教育問題、自然環境の破壊などが考えられます。こうした社会と、そこに住む人々の心を暗くしている諸問題に対して、地域住民が無関心であったり、政治のせいだけにしたりしないで、みずから真剣に取り組むことが必要でしょう。

しかし、このようにいろいろと社会を暗くする問題が数え上げられるのも、**その根本原因は、人間の道義の低下、もっと平易にいえば“他の人はともかく、自分さえよければ……”という利己心の一語に尽きるのではないでしょうか。**そこで、明るい社会づくり運動では、まず自分が光となって社会の一隅を照らすことの大切さを強調したいのと思うのです。

だいたい、人間というものは独りでは何もできませんし、生きていけないものです。その意味で、インド人が人のことをプルシャとかヌマシャとか、いずれも複数の意味をもった言葉で呼んでいることに感心させられます。仏教は人間の平和の心とともに人類平和への道も説いているのですが、とかく仏教というと、個々の人間の内なる問題だけを取り扱うものだと一般的に思われているのは、残念なことです。仏教の場合は、キリスト教が世界の隅々まで宣教師を送り、医療・教育・貧困対策・孤児養育その他の事業を実施してきたのに比べて、その理想実現のための活動がはるかに弱いことは事実でしょう。

こういう点について、従来の仏教が遅れていた一面を謙虚に反省する必要がありましょう。これまでの仏教は、どちらかといえば世俗の問題を超越することにもっぱらであって、現実と取り組むことに欠けていたといわれても仕方がないと思います。現実を知らずして、どうして現実を超越することができましょう。

かといって、宗教のもつ根本的な働きを二の次にしていいというのでは決してありません。ごく最近では、公害の恐ろしさよりも、むしろ宗教を棄てた人間の内面的崩壊のほうがはるかに恐ろしいことが識者によって警告されています。梅原猛氏なども、宗教と道徳を失って人間が一日一日と獣に帰っていきつつあることを嘆かれるとともに、この人間の内的崩壊が自然の外的崩壊をも引き起こしていることを指摘されています。

このように考えますと、宗教者の今日果たさねばならぬ役割はまことに重大なものがあります。たんに目の前に発生している公害現象を排除するためだけに立ち上がるのであれば、それは他の一般団体や地域住民グループでもできましょうが、それはともに宗教者は、他の迷惑をかえりみない独善性という人間の心にメスを入れなければなりません。それがなくては本質的な公害対策とはいえないのです。

４～５月の主な教会行事

４月１日(金)	9:00～	朔日参り・布薩の日
３日(日)	9:00～	花まつり
４日(月)	9:00～	開祖さまご命日
８日(金)	9:00～	降誕会
10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
23日(土)～		壮年部本部参拝
24日(日)		
５月１日(日)	9:00～	朔日参り・布薩の日
４日(水)	9:00～	開祖さまご命日
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
		第４７回青年の日

●メッセージ

お陰さまで１００号を迎えることが出来ました。創刊は２００８年１月１５日でしたので、丸８年になります。このメッセージコーナーは創刊時から変わらず、編集部からの一言欄になっています。創刊号では「人々が平安に生活できるように」という願いを込めながら毎号発行していきたいと決意発表(?)していました。

「周りから平安な触れあいを求めるのではなく、相手の心にたとえさざ波があろうとも常にこちらから平安な心で接していける渉外部メンバーでありたいものです」とも書いており、果して実践出来ているものか大変恥ずかしい限りです。ここで改めて初志貫徹に努めたいと思います。今後ともよろしくお願いします。